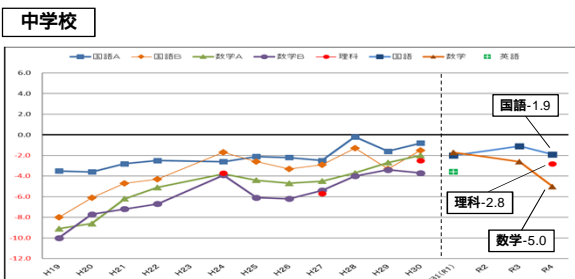
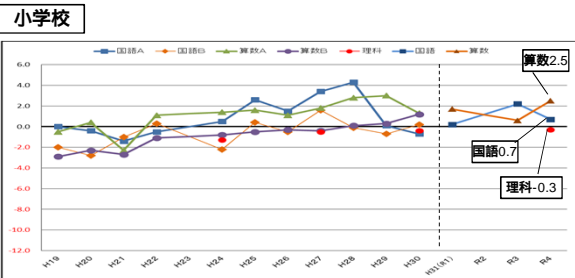
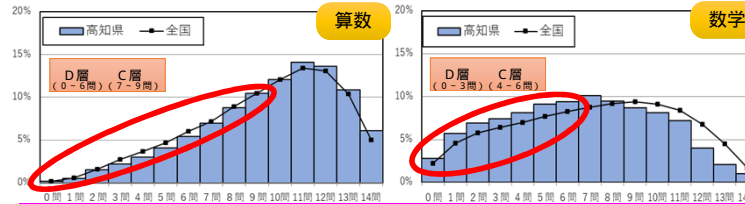


全国学力・学習状況調査結果（平成19年度～令和4年度）  
高知県平均正答率と全国平均正答率との差

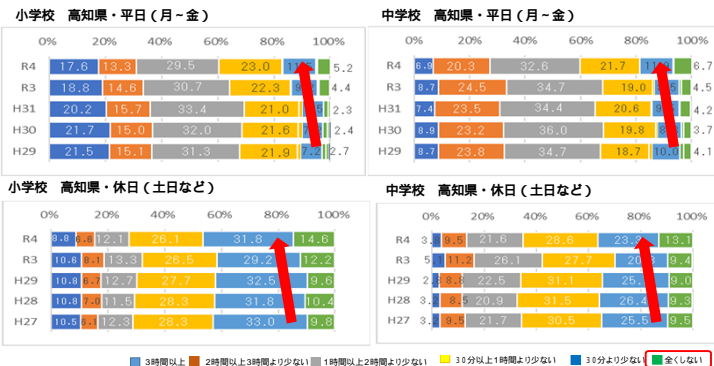


現状

同一集団から見た正答数分布の状況（H31年度 小6算数 R4年度 中3数学）

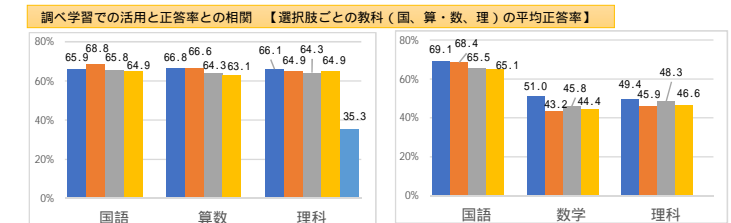


児童生徒質問紙 学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか



算数・数学について、同集団でみると、H31年度の小学校ではC・D層の割合は全国より少ないか同等であったが、中学校ではC・D層の割合は全国より多くなった。  
（文部科学省は、調査結果を正答数によって、AからDの4つの層に分け、上位から1番目をA層、2番目をB層としている。）  
小学校段階からの「つまずきへの手立て」が必要である。また、**数学をはじめとする授業改善**や学校全体で学力を定着させる仕組みをしっかりと整える必要がある。  
授業時間以外に、普段も休日も「全く勉強をしない」と答える児童生徒の割合がここ数年増加傾向にある。  
小学校・中学校ともに**家庭学習習慣の定着**が必要である。

1人1台タブレット端末の家庭での利用状況  
授業（調べ学習）におけるICT活用と学力との相関



小学校は、国語・算数ともに引き続き全国平均を上回る結果となった。R3年度と比べ、特に、算数が大きく向上した。  
中学校は、すべての教科で全国平均を下回り、全国平均との差を広げる結果となった。学校質問紙において「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基き、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と強肯定的な回答をした中学校の割合が、R3年度より-7.9ポイントと、大幅に減少した。  
中学校は「教科のタテ持ち」を推進するなど、組織的な取組を推進してきたが、学校全体で目標を共有し取り組む体制や、**学力向上についてのPDCAサイクル**のうち「チェック」「アクション」の部分に弱さがあったと考える。

1人1台タブレット端末を毎日持ち帰って、毎日利用させている学校の割合は、小学校・中学校ともに全国より大幅に少ない。  
授業ではほぼ毎日活用している学校の割合は、小学校は37.5%（全国比-20.7p）、中学校は52.9%（全国比-2.6p）と、特に小学校は全国との差が開いている。  
児童生徒が自分で調べる場面においてICTを活用しているという学校は学力が高い結果を表すなど、ICTと学力には相関関係がみられる。  
家庭の通信環境等の課題もあるが、1人1台タブレット端末を持ち帰るなどして、日常的に使えるよう、市町村教育委員会にも発信することが重要である。  
特に小学校において、**ICT活用**への意識改革や取組を進める必要がある。

課題と今後の取組

Flowchart of future measures and challenges. It includes sections for: 1. Establishment of the PDCA cycle for middle schools. 2. Improvement of teaching in middle school mathematics. 3. Support for students with low academic ability. 4. Establishment of home learning habits. 5. Use of ICT in elementary schools. Each section lists specific actions and goals.

市町村の主体的な学力向上策・学校の組織的な取組の推進

各管内の教育長会や地教委訪問における発信  
成果・課題と今後の取組について説明し、危機感を共有することで、市町村の主体的な学力向上策への意識を高める。  
各市町村の校長会における周知・徹底  
成果・課題と今後の取組について周知し、学校の組織的な学力向上対策の推進を図る。

Table showing the results of a digital drill for 500 middle school students. The table lists subjects (Japanese, Social Studies, Math, Science, English) and the number of students who completed the drill.